
涼宮ハルヒの洞窟

棘草かがみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涼宮ハルヒの洞窟

【Zコード】

Z0941F

【作者名】

棘草かがみ

【あらすじ】

ハルヒが小学五年生のときの物語。ある日、デパートで開店100人目なので扉に入れてもらつた。すると洞窟にいた。そこは不思議のダンジョンで・・・。

プロローグ

あたしはハルヒ、涼宮ハルヒ。
ごく普通の小学5年生。

ハルヒ「今日はどうなるのかな」

あたしは普通に学校に行く、途中で新しく出来たデパートを見つけた。

時間があるし、このデパートに行く

店員「開店100人目の貴方は特別にこの扉に入れてあげます」

あたしはその扉に入った。
すると何かの渦の中で飛ばされた。アトラクションなのか。
それとも……

あたしの前に丸くて尻尾があつて顔の上の方が青い可愛い生き物が
1匹目の前にいた。

ハルヒ「あんた、誰?」

あたしはこの未知の生物に話しかけた。
すると、その未知の生物は答えた。

マムきち「ボクはマムルのマムきち。貴方はだれ?」

この生物はマムルと言つ生物らしい。猫なのか、リスなのか、何か
は分からぬが獸だとは思つ。

人間とかの種類だと思つ。

あたしもそのマムきうちにして自己紹介をする

ハルヒ「あたしは涼宮ハルヒ。よろしく！」

あたしはマムきうちと仲良くなつたが、ここが何処なのかはわからな
い。

未知の生物が居ると言う事は自分の生活している世界とは別かもし
れない。

小学五年生のハルヒにとっては、大騒ぎするほどではなく、冷静に
も一応なれる。

ハルヒ「ねえ、マムきうち、ここは何処？」

マムきうち「ここの……不思議のダンジョンの中。このダンジョン
を抜けて町へ行くんだ！！」

ハルヒ「わかつたわ、マムきうち、道案内して……！」

あたしの波乱万丈なたびは今始まつた！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0941f/>

涼宮ハルヒの洞窟

2010年10月10日03時25分発行